



No. 33 号 成 田 市
2013 年 11 月 発行



意識から行動へ～ひと男女が響き合うまち 成田をめざして～



10月の台風被害、タイムリーな気象の話題に女性も男性もクギづけです。

★Contents(主な内容)★

- ☆ 平成 25 年度男女共同参画講座開催報告
- ☆ さざなみインフォメーション
ハローワーク成田マザーズコーナー開設
公津の杜なかよしひろば OPEN

◆男女共同参画社会基本法 5 本の柱

- ①男女の人権の尊重
- ②社会における制度又は慣行についての配慮
- ③政策等の立案及び決定への共同参画
- ④家庭生活における活動と他の活動の両立
- ⑤国際的協調

～平成 25 度男女共同参画講座開催報告～

平成 25 年 11 月 2 日 (土) にフォーラム・イン・ナリタ開催

成田市に限らず日本各地で発生している異常気象や気象情報について、講師の気象予報士木原実さんに講義をいただきました。

まず、降水量について説明があり、ニュースや天気予報で降水量は 1 時間単位で表現され、1 時間に 100 ミリの雨量と聞いても、10 センチというとはそれほどでもないと感じるかもしれないが、1 時間に 100 ミリの雨が成田市全域に降ったとすると、それは 25m プール (容量を 500 t と想定した場合) 42,800 個分になるとの驚きの数字でした。また、突発的に発生するゲリラ豪雨の発生のメカニズムを CG とペットボトルを使った雲発生の実験を交えて、都市型ゲリラ豪雨の危険性が指摘されました。さらに、実際の「雨のカタチ」の映像が映し出され、あんばん型であるなど興味深い気象の話が披露されました。最後に、気象庁から発令されている注意報、警報、土砂災害警戒情報、特別警報などの気象情報は、『一人ひとりの命にかかわる大切な情報』であること、避難勧告指示は行政が行うものであることなどが台風 26 号の例を挙げながら説明されました。会場の方々も、木原さんの軽妙な語り口で、気象への関心を一層強くした講演になりました。(中佐藤推進員)

次に、6 月から順次開催している男女共同参画セミナーの様子を写真と推進員からのレポートで紹介します。

第 1 回 男女共同参画セミナー

- ・実施日 平成 25 年 6 月 28 日 13 時 30 分～
- ・講師 坂内 美佐子さん
(千葉県 SL ネットワーク副会長)

2011 年の東日本大震災では避難所生活が長引き、女性の視点での防災への関わりが求められています。そこで今回は、座学と災害時グッズ工作体験を実施しました。

講義は、地震のメカニズムから始まり、繰り返される災害のなか、我が身・我が家族は自分で守ること、災害への備え・危機感が必要であること、女性の参画が必要であること、災害時の自助、共助、行政が行う公助がスムーズにいくようにすることが市民の努めであると学びました。その後、工作体験では講師の説明で、ビニール袋でポンチョ・ベスト・スカートを作成し、段ボール箱トイレの作成では、参加者が意見を出し合いながら、各々の形が違う段ボール箱トイレが出来上がりました。(今和泉推進員)



第 2 回 男女共同参画セミナー

- ・実施日 平成 25 年 7 月 17 日 13 時 30 分～
- ・講師 中村 彰さん
(とよなか男女共同参画推進センターすてっぴ前館長)

現在、65 歳以上の高齢と呼ばれる人達の割合が 4 人に 1 人という。高齢化の進行に加えての少子化。「人生自分流！生きがい再発見」のテーマは講演に参加された受講生にはとてもタイムリーなお話でした。特にリタイアした夫婦二人世帯のライフスタイルには、日常会話ひとつを取り上げても、感謝、思いやり、お互いを認め合う関係は必要不可欠。また、講師のお話は遺言からお墓に至るまで広がり、考えを巡らせ熟考するには充分の課題を投げかけられた講演となりました。(小川推進員)



第3回 男女共同参画セミナー

- ・実施日 平成 25 年 8 月 24 日 13 時 30 分～
- ・講師 西村 直人さん
(NPOえほんうた・あそびうた代表)

「えほんうた♪」でウクレレを片手に全国各地で音楽と絵本の楽しさを伝える西村直人さんと楽しい一時を過ごしました。

沢山の絵本を読んで頂き、軽やかにウクレレを弾きながら、絵本をテーマにした楽しい歌を歌ってくれました。カッパの声とか、小鳥のさえずりとか、みんな思わず釘付けの面白い小道具も登場！会場はみんなを温かく包み込んでくれるほんわかした空気が流れていました。

『父親にももっと育児参加を』と、自らの子育てのエピソードを交えながら行われたえほんうたライブでは、子どもたちはのびのびと動き回り、笑顔がいっぱい、いつしか大人もわらべ心が溢れていました。ライブの中では絵本の紹介もあり、大人も子どもも絵本の楽しさを学ぶことができました。(根本推進員)

ライブ後のアンケート結果では、お父さんの育児・家事時間の質問には、国の平均では1日67分、週では7時間49分ですが、8時間未満が30%、16時間未満が44%、16時間以上も26%あり、参加者の家庭では積極的な育児・家事参加が行われているようです。また、仕事と家庭生活の調和には、保育サービスの充実や働き方の見直しが必要との結果になりました。



☆当日参加の皆さんからはこんな声が届いています☆

普段平日は会社なので土日にこういう企画をしてくれるのはありがたいです。託児所があるのも本当にありがたい。いつも弟(2才)のためにお兄ちゃん(4才)が我慢をすることが多いので今日はゆっくりお兄ちゃんと遊べました。(30代女性)

私も絵本のツールは寝かしつけの時間に…でした。『幸せな時間を一緒に過ごす為のツール』として今を楽しむ、そして主人と仲良

く家庭円満が子供達にとっても幸せな事なんだと改めて感じました。(30代女性)

絵本の中の世界を大事にしたいと考えているので、極力文章を変えず間に説明など入れずに読んでいるので、今日のライブは衝撃的でした。夫もハテに読む方なので男の人はこういう読み方を好むのかと思いました。実際息子2人は今日とても楽しんで喜んでいました。たまにはこんな感じでアレンジして親子で楽しみたいと思います。(40代女性) お父さん目線のトーク&ライブで夫婦一緒に参加して2人とも(もちろん子供達も)楽しむことができすごくよかったです。(30代男女)

新米パパ必見/西村直人さんの読み聞かせの極意三箇条を伝授

その壱 絵本は最高のコミュニケーションツール。幸せな時間を過ごすことを最優先にすべし

その弐 心をオープンにして、子ども目線で接する『大きな子ども』になるべし

その参 いつも楽しくて、安心させてくれる懐の深いヒーローパパを目指すべし

当日紹介された主な絵本を5冊ほど紹介します。

『ぴょーん』『うんちっち』『パパ、お月さまとって』『三びきのやぎのらがらどん』『すてきな三にんぐみ』



さざなみインフォメーション

ハローワーク成田

マザーズコーナーができました

ご存知ですか？10月15日から成田市役所2階西側の相談室が、ハローワーク成田のマザーズコーナーになりました。マザーズコーナーでは、ハローワークと同じシステムを使用し、ハローワーク職員が、子育てをしながら就職を希望している方に対し就職支援をしています。こんなサービスを提供しています！

- 仕事と子育ての両立しやすい求人情報を提供します。
- 担当者制でじっくり相談が受けられます。
- お子さんといっしょに利用できます。
- 保育所や、子育て支援に関する情報が入手できます。

出産・育児などで退職をしたが、再就職を考えている女性にも朗報です。ご利用されてはいかがでしょうか。

利用時間は月曜日から金曜日の午前8時30分から午後5時までです。(祝日・年末年始は休み)

お問い合わせ先は、

ハローワーク成田マザーズコーナー 0476-20-0567へ

◆おたより募集中！

☆男女共同参画に関する意見・感想などを送ってください。お待ちしております。

☆おたよりの送付先

〒286-8585 成田市花崎町 760

成田市企画政策部企画政策課

男女共同参画係

☎20-1500 ファックス 24-1006

Eメール kikaku@city.narita.chiba.jp



※さざなみは、支所、公民館、図書館、保健福祉館、三里塚・公津の杜コミュニティセンター、市のホームページ (<http://www.city.narita.chiba.jp>) にあります。

公津の杜になかよしひろばがOPEN

7月1日に公津の杜4丁目に『もりんぴあこうづ』がオープンしました。『もりんぴあこうづ』内には、公津の杜コミュニティセンター、図書館公津の杜分館、公津の杜なかよしひろばが入っています。

なかよしひろばは、0歳から未就学のお子さんのいる親子が楽しく遊べる場所で、仲間づくりの場にもなっています。公津の杜なかよしひろばは、8月には利用登録が1,000人を超え、たくさんの親子が遊んだり、おしゃべりしたり、くつろいだりするスペースとして定着しつつあります。

お楽しみ会などのイベント開催や、おしゃべりひろばでの交流など新しい楽しみやお友達の輪も広がります。まだいらしたことがない方は、ぜひ一度お越しください。

開館時間：午前9時から午後4時30分

休館日：毎月第4月曜日(祝日に当たる場合はその次の平日)、年末年始

お問い合わせ先は、TEL 0476-27-7300

Fax 0476-27-3344



編集後記：2020年のオリンピック開催地が東京に決定しました。あの東京オリンピックが1964年開催、56年ぶりです。1975年国際婦人年世界会議の11年前の事でした。あれから日本の社会はどのように変わったのでしょうか。女性アスリートの活躍のように、男女共同参画社会の形成が躍進し、表彰台に上がるにはまだまだ時間がかかりそうです。